

(1) 級友の近況報告:

今回のクラス会では近況報告を兼ねて、16名の方々へ案内状を差し上げ、クラス会には昨年の7名の方に加えて、三宅兄の御参加を得て下記8名の方が参加されました。

注1): クラス会に出席された方: (敬称略)

五十嵐昭一、加木好之、古要淳也、杉山友章、丸茂長幸、三宅一郎、山上哲郎、岩崎信二

注2): 欠席者された方: (敬称略)

所要又は体調不良、介護等のため、下記7名の方が欠席されました。

欠席された方の近況については、返信葉書でお知らせいただきました。

内容については、添付コピーをご参照ください。

岩月二次、臼居稔、大島吉寿、大平宣夫、本村昭雄、代田益穂、丹波孝、

注3) 下記2名の方については、返信を頂けませんでした。(敬称略)

小駒義就、土屋正

注4) 幸いにして、今回は会員の訃報の連絡はありませんでした。

(2) 弘陵造船航空会の近況報告

1) 平成29年度ホームカミングデイ:

・開催日時: 平成29年10月14日(土曜日)

詳細: 添付資料参照。(回覧)

2) 弘陵造船航空会交流会:

・開催日時: 平成30年5月26日(土曜日)

・場所: 国大理工学部第二食堂(予定)

(3) 会報への報告:

会報56号及び57号(平成28年及び29年)に原稿提出するも、クラス会の掲載なし。今回もクラス会報告を提出する。

(4) 出席者懇談会の概要:

1) 山上兄より、今回桜蔭会に出品された「三菱横浜ドックとみなとみらい」を描いた作品の説明あり。

我々にとって、工専在学中から戦後20年間、桜木町駅沿いに存在感を示していた三菱ドックを思い出し、感無量。

また、山上兄は毎日の出来事と感想を22年以上にわたり記録された「私の五行詩」が延べ8200号に達せられたと伺い、一同感歎。

2) 三宅兄より、江戸時代に遡る家系園と260頁に及ぶ「三宅一郎の自分史」完成の報告有り。

クラス会終了後、古要兄より送付された上記「自分史Jの内容は以下の通り。

- ・戦前の少年時代から、東京大空襲を含む戦時中の生活、更に昭和20年から23年までの横浜工専の状況が記載されており、貴重な資料と興味深く読了。
- ・また、三宅兄は多年にわたる教育界への貢献を認められ、平成28年3月9日88歳で高齢者叙勲の「瑞宝双光章Jを受賞された由。

クラス会終了後に読了のため、報告が選れましたが、あらためてクラス会全員からのお祝いを伝えたいと存じます。

3) 杉山兄は、現在も税理士として各社の決算時には大変多忙とのこと。

4) 会員各位からは、年齢(卒年前後)に応じた体調の調整や、老老介護の苦心談等に花が咲き、3時に終了。

最後に、会員各位から、来年度もクラス会開催の要望あり、又、会場も横浜駅により近い「崎陽軒J等を希望するとの事。

昭和23年率の我々にとって、率後70周年になる事も考慮し、幹事3名で今後検討する予定。

幹事より、今回のクラス会報告を欠席された方にも、添付資料とともに送付するとともに、出席者一団が皆様の体調の回復とご多幸を心より祈願していることを伝える旨、報告、賛同を得ました。

添付資料:

- 1) 山上兄作品「造船所の眠る みなとみらい」
- 2) 出席者写真
- 3) 欠席された方の近況報告(開催通知通信の写し)

追記:上記三宅兄の自分史について、ご希望の方には回覧致しますので、岩崎幹事までご連絡下さい。

(以上)

「造船所の眠る みなとみらい」 (山上兄作品)



「みなとみらい21」を地下で守る

1. 現役の三菱ドック掘削
 市イスの改修に伴って、昔、「カ
 正の長城」と呼ばれた旧東急東横線の
 ガード下を穿った所に、鉄筋の貨物橋
 が通っていて、「れっき」とした自動開
 閉設備があり、その名は「三菱ドック
 掘削」！ 跡には、従来の石造コンピ
 ナートへ行くらしい、石造タンク型の
 貨物の基礎に、出金つたりします。
 「三菱ドック」の通称で呼ばれた造船
 所は、もうその姿はなく、「みなとみら
 い21」の礎となって眠っています。
 且ては、横浜の経済に無くしてはな
 らぬ存在として100年の歴史を刻ん
 だ造船所でしたが、時代の変遷と共に、
 市民の中心にある土地が平倉となり、
 大震災の復興のための4半世紀以上に
 亘る、変遷にその工場を移しました。

2. 旧造船所の跡めぐり

昔いに「みなとみらい21地区」は計
 画に違わず、横浜の発展の原動力の一
 つとなって発展を続け、「美術館」「み
 なとみらいホール」「博物館」「商業地
 区」「企業活動の中心ビル」「新高級住
 住施設」などが、目を驚かしました。
 然も、現今この地区を歩きますが、
 依然旧東急が浮ぶ「1号ドック」、その
 近くに展示された「ドック用排水ポン
 プ」、華やかなイベントの会場に生まれ
 変わった「2号ドック」に、その片鱗を見
 出し、最新鋭の技術は「三菱重工機
 器ビル」に継承されましたが、
 基本式があった船台はどこ？
 ディーゼル機関を運転した工場は？
 設計部門が入っていた本館は？
 掘削工場には大煙突があったつけ！
 となると、探しても、船場その跡地を
 知ることは至難の至です。

3. 成る 閉鎖一けたの 思い出

私は、戦争末期に、「造船部門」の技術
 付随になれば、軍隊でぶん殴られるこ
 とはないだろう」との妙な考えで、当
 時の「横浜商工の造船科」に入社。
 戦後、本館は米軍に接収されてい
 て、許可なしには入る事も許されぬ中、
 造船や小型の貨物船や客船を建造して
 いた時代に、この造船所の設計部門に
 就任。沢山の失敗を味わった。先ず、
 同僚に助けられて、大型タンカーの初
 期設計など、沢山の造船設計に携
 わらせて貰い、大改修工事の計画や
 試運転での性能計画にも従事。その後、
 設計部門から修繕部門に移り、今も
 残る「1号ドック」「2号ドック」を初
 め、本館に新造された大型ドックへ入
 る修繕船の、出し入れにも携わらせて
 貰い、沢山の思い出を作ったのでした。

4. 君を、忘れないよ！

28年間、船に関係する仕事につ
 いて、「運来」等、夜中でも夢に見る情
 懐がありました。又、夜中に、我が家
 まで来て、船用の大型エンジン試
 運転の「ドンゴン」という運轉機
 音に、新エンジンが新造船に搭載され
 る目の前の喜びを感じたものでした。
 海へ向かって積荷した船台は、1万
 トンを超える巨大な重量も支え、船橋
 には、その物体を海上にすべり下ろす
 装置ですが、その装置は是迄でなく、
 今、美術館通りが、小高くなっている
 下には、この装置を船台の支脚が設置し
 ていたのではないかと、固執で確かめ
 て見たくなったのが、この地区の跡ま
 りで、とても、「正確」とは言えませんが、
 昔を懐かしく「よすが」の図です。
 永遠に、この地区の礎として守って！
 2017-10 山上 兄

平成29年度クラス会出席者 (敬称略)

前列右側より：杉山、三宅、山上、岩崎

後列右側より：五十嵐、加木、古要、丸茂

